

平成 28 年度認知症対策の主な取組みについて

1 概要

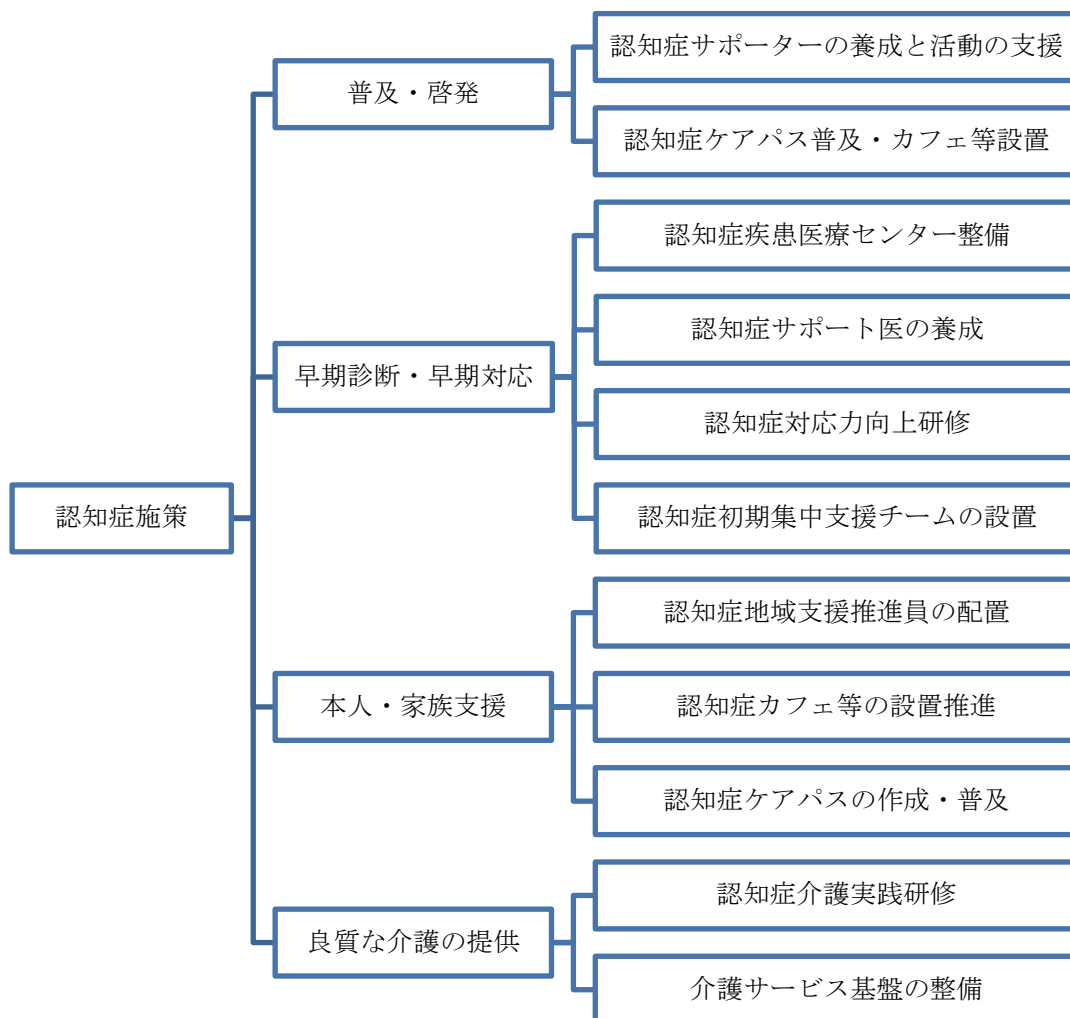
平成 28 年 10 月 1 日現在、本市の住民基本台帳人口は 1,058,128 人、そのうち 65 歳以上人口は 236,634 人（高齢化率 22.4%）である。

厚生労働省の認知症高齢者人口調査（平成 27 年 3 月公表）をもとに推計すると、本市の認知症高齢者は平成 28 年には約 3 万 5 千人、団塊の世代が 75 歳以上となる平成 37 年（2025 年）には約 5 万 5 千人になると予想される。

このような状況のもと、平成 27 年 1 月に厚生労働省より、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現すべく「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）が公表された。

本市では、新オレンジプランに示される施策と目標に基づき認知症対策を推進している。

【仙台市の認知症施策】



2 主な認知症対策事業

(1) 普及啓発の取組み

①認知症サポーターの養成と活動の支援

認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人やその家族を手助けする認知症サポーターを養成している。(仙台市健康福祉事業団に業務委託)

【新オレンジプラン目標】[全国養成者数]平成 29 年度末 800 万人 (累計)

【表 1】<本市における認知症サポーター養成者数推移>

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度 (12 月末まで)
養成講座開催数	161 回	213 回	278 回	240 回
養成者数	6,306 人	7,840 人	10,689 人	9,798 人
養成者数 (累計)	29,458 人	37,298 人	47,987 人	57,785 人

企業、事業所、学校、児童館、老人クラブ、町内会などを対象に認知症サポーター養成講座を開催。

また、認知症サポーターの活動支援の検討のため、意識調査を実施。

【詳細は P3～4 参照】

②キャラバン・メイトの養成

認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトを養成している。
(仙台市健康福祉事業団に業務委託)

【表 2】<本市におけるキャラバン・メイト養成者数推移>

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
養成者数	48 人	45 人	60 人	66 人
養成者数 (累計)	472 人	517 人	577 人	643 人

キャラバン・メイトとしての活動や日常業務に役立ててもらうことを目的として、キャラバン・メイトネットワークに登録いただいた方あてに、認知症に関する研修やイベント、最新情報などを不定期にメール配信している。(平成 28 年 12 月末時点 登録者 63 名)

③市政だより等での広報

市政だより平成 28 年 10 月号巻頭において、「認知症を正しく理解し地域で支え合おう」として特集記事を掲載した。また、11 月号において、「認知症を怖がらないで」とのタイトルで市長コラムを掲載。

また、月刊介護保険 (H28 年 7 月号「自治体はいま：認知症当事者の声を積極的に施策に反映」)、宮城県看護協会広報紙「Kango のひろば」(H28 年 8 月号「特集：認知症とともに」) 仙台市医師会会報「てとてとて」(H28 年 12 月号「特集：認知症～暮らしながら治療する～」) 等において仙台市の取組みを紹介いただいた。

平成28年度の取組み状況「認知症サポーターの意識調査」

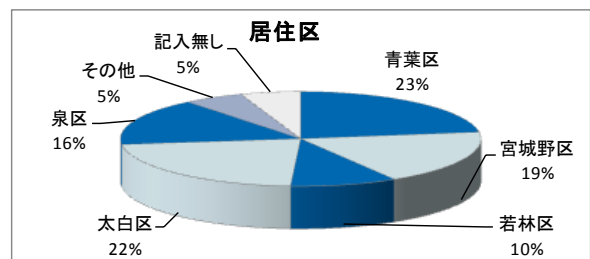
認知症サポーターを量的に養成するだけでなく、あくまでもできる範囲で手助けを行うという活動の任意性は維持しつつ、養成された認知症サポーターが認知症高齢者等にやさしい地域づくりを加速するために様々な場面で活躍してもらえるようにすることについて検討するため、仙台市健康福祉事業団 介護研修室の協力のもと、認知症サポーターの意識を調査した。
この結果を今後の取組みに活かしていきたい。

平成28年度市民向け介護講座「認知症を理解する」参加者へのアンケート結果

実施主体	仙台市健康福祉事業団 介護研修室
実施日	①平成28年9月15日(木) ②平成28年12月7日(水)
会場	①②とも 仙台市シルバーセンター 7階 第1研修室
受講者数	①88名 ②99名 計187名
アンケート提出者数	①81名 ②86名 計167名

居住区

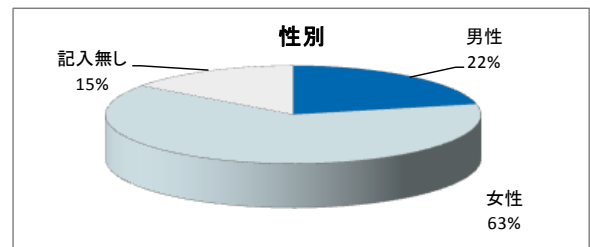
	(人)	回答数
青葉区		38
宮城野区		31
若林区		16
太白区		37
泉区		27
その他		9
記入無し		9
計		167



その他／多賀城市 富谷氏 岩沼市 名取市 松島町 柴田町

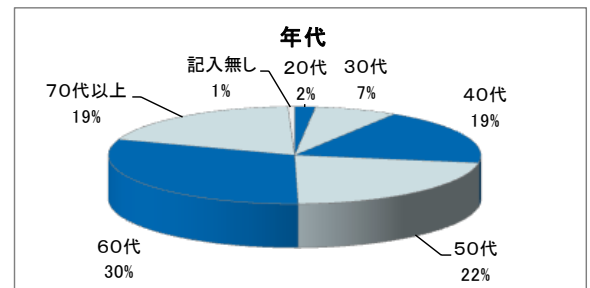
性別

	(人)	回答数
男性		36
女性		106
記入無し		25
計		167



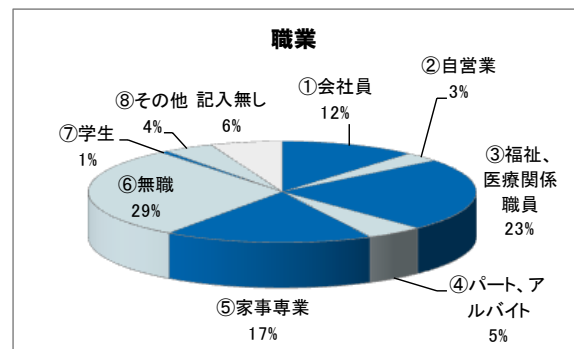
年代

	(人)	回答数
20代		3
30代		12
40代		31
50代		37
60代		51
70代以上		32
記入無し		1
計		167



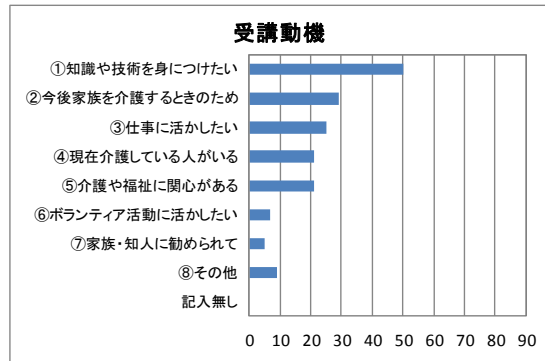
職業

	(人)	回答数
①会社員		19
②自営業		5
③福祉、医療関係職員		39
④パート、アルバイト		8
⑤家事専業		29
⑥無職		49
⑦学生		1
⑧その他		7
記入無し		10
計		167



1 講座を受けようと思った動機(主なもの1つ選択)

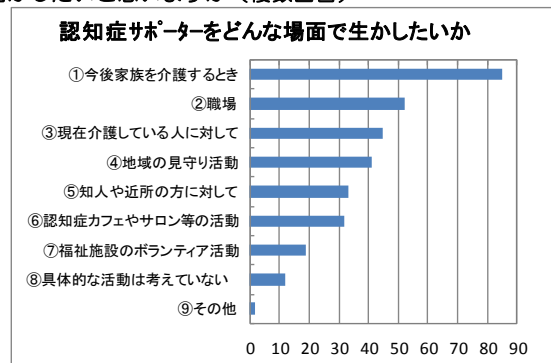
(人)	回答数
①知識や技術を身につけたい	50
②今後家族を介護するときのため	29
③仕事に活かしたい	25
④現在介護している人がいる	21
⑤介護や福祉に関心がある	21
⑥ボランティア活動に活かしたい	7
⑦家族・知人に勧められて	5
⑧その他	9
記入無し	0
計	167



その他／ 姉が認知症ではないかと心配で 自分のことを知るために 職場の人に勧められて 祖母が認知症のため

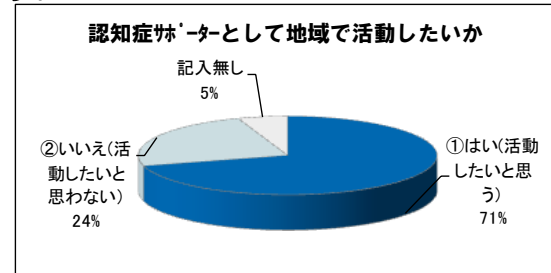
2 今後、認知症サポーターとしてどのような場面で活かしたいと思いますか(複数回答)

(人)	回答数
①今後家族を介護するとき	85
②職場	52
③現在介護している人に対して	45
④地域の見守り活動	41
⑤知人や近所の方に対して	33
⑥認知症カフェやサロン等の活動	32
⑦福祉施設のボランティア活動	19
⑧具体的な活動は考えていない	12
⑨その他	2
計	321



3 認知症サポーターとして地域で活動したいと思いますか

(人)	回答数
①はい(活動したいと思う)	118
②いいえ(活動したいと思わない)	40
記入無し	9
計	167

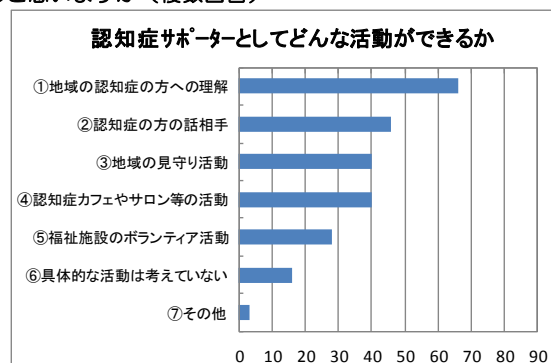


※「いいえ」を選択した方の意見

- ・地域はとても難しい、声がけ、呼びかけなどとてもない
- ・難しい、特に近所は。
- ・配偶者の介護で余裕がない。

「はい」と答えた方は具体的にどのような活動ができると思いますか(複数回答)

(人)	回答数
①地域の認知症の方への理解	66
②認知症の方の話相手	46
③地域の見守り活動	40
④認知症カフェやサロン等の活動	40
⑤福祉施設のボランティア活動	28
⑥具体的な活動は考えていない	16
⑦その他	3
計	239



4 全体を通しての感想など

《よかった等》

- ・認知症の医学知識の理解と関わり方について理解できた。
- ・優しい気持ちで接しないといけないと思った。
- ・認知症サポーターの地域としての取り組み等認知症についてもっと勉強していけたらと思う。

《その他》

- ・認知症になった時まわりの人の支援があるか？不安だ。
- ・認知症に関する講座を数回うけているが、職場に中々活かし切れない。
- ・多くの人に参加してもらいたい

(2) 早期診断・早期対応のための体制整備

① 認知症疾患医療センターの整備

認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、専門医療相談等を実施するとともに、地域保健医療・介護関係者への研修等を行う認知症疾患医療センターを整備する。

【新オレンジプラン目標】[全国]認知症疾患医療センター整備数 平成 29 年度末
約 500 か所（二次医療圏域に 1 か所以上、高齢者人口 6 万人に 1 か所程度）

【表 3】 <本市が指定している認知症疾患医療センター一覧>

医療機関名	所在地	指定日
いずみの杜診療所	泉区松森字下町 8-1	平成 26 年 9 月 1 日
仙台西多賀病院	太白区鉤取本町 2-11-11	平成 27 年 9 月 1 日
東北医科薬科大学病院	宮城野区福室 1-12-1	平成 28 年 8 月 1 日
東北福祉大学せんだんホスピタル	青葉区国見ヶ丘 6-65-8	平成 28 年 8 月 1 日

平成 28 年 9 月 14 日には宮城県と合同で、県内の 11 か所の認知症疾患センター担当者と情報交換会を開催。関係機関との連携、初期集中支援推進事業への関わり等について意見を交換した。

② 認知症サポート医の養成

かかりつけ医の認知症対応力を向上させるための研修講師や、かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役等の役割を担う認知症サポート医の養成を進めている。

認知症サポート医は、認知症疾患医療センター、仙台市医師会等とともに企画会議に参加し、地域医療体制についての意見交換、課題の共有、研修内容の検討等を行う役割も担っている。

【新オレンジプラン目標】[全国]認知症サポート医（累計）平成 29 年末 5,000 人
（一般診療所 20 か所に対して 1 人配置という基本的考え方）

【表 4】 <本市における認知症サポート医の養成者数推移>

	H17～24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度（見込）
養成者数	11 人	1 人	4 人	4 人	12 人
養成者数（累計）	11 人	12 人	16 人	20 人	32 人

認知症サポート医及びかかりつけ医認知症対応力向上研修修了者のリストを仙台市ホームページ上で公開している。

平成 28 年 2 月 2 日（木）には、認知症サポート医、認知症疾患医療センター、医師会が参加し、地域医療体制についての意見交換、課題の共有、研修内容の検討等を行う企画会議を開催予定。また、平成 29 年 2 月 13 日（月）には、認知症サポート医が認知症の診断・治療・ケア・地域支援等に関する研修及び意見交換を行う「認知症サポート医フォローアップ研修」を、宮城県と共同で開催予定。

③認知症対応力向上研修の実施

高齢者が日頃より受診する医療機関等に対し、適切な認知症診療の知識・技術や認知症の人やその家族を支える知識と方法を習得するための研修等を実施。(仙台市医師会に業務委託)

<本市の取組み状況>

ア) 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修

【日時】平成 28 年 10 月 4 日 (火) 19 時～20 時 30 分

【会場】仙台オープン病院

【講師】泉病院 長谷部 誠 先生 (認知症サポート医)

【受講者】仙台オープン病院に勤務する医師、看護師、相談員等 125 名

イ) かかりつけ医向け認知症対応力向上講座

【日時】平成 28 年 11 月 9 日 (水) 19 時～20 時 30 分

【会場】仙台市医師会館

【講師】仙台西多賀病院 大泉 英樹 先生 (認知症サポート医)

【受講者】医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャー、包括等 131 名

④認知症初期集中支援チームの設置

早期に認知症の鑑別診断が行われ、速やかに適切な医療・介護等が受け入れられる初期の対応体制が構築されるよう、複数の専門職による認知症初期集中支援チームを設置し、認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行った上で家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行う。

【新オレンジプラン目標】認知症初期集中支援チーム設置を平成 30 年度以降すべての市町村で実施

【表 5】<本市の取組み状況>

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度 (11 月末まで)
訪問件数	12 件	16 件	155 件	44 件
相談事例	16 件	27 件	34 件	51 件

平成 25 年度に認知症初期集中支援チーム設置促進モデル事業を実施し、3 か所の地域包括支援センターエリア (国見、小松島、向陽台) を対象に 1 チームを設置。平成 27 年度は青葉区、宮城野区、泉区の 3 区 32 か所の地域包括支援センターエリアに増やし、2 チームで実施。平成 28 年度は全市を対象とし、4 チーム構成としている。

【詳細は P7～10 参照】

平成 28 年度の取組み状況「認知症初期集中支援推進事業」

1 事業の主旨

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることを支援するために、「認知症初期対応サポートチーム」を配置し、認知症の人やその家族に対して訪問などにより早期に専門職が関わり早期診断・早期対応に向けた支援を行う。

2 事業目標

- ①地域住民、医療・介護の関係機関への普及啓発により早期に相談が入る仕組みづくりを進める。
- ②地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員と初期対応サポートチームが連携し、認知症の人や家族へ専門的な視点に基づいた支援を行う。

3 事業概要

(1) 普及啓発推進事業

地域住民や関係団体に対し、認知症の早期発見・早期対応や当事者・介護家族の声を反映した正しい認知症の普及啓発を図る。また、初期対応サポートチームの周知を図る。(地域包括支援センター・区障害高齢課・介護予防推進室が一体となり進める。)

(2) 初期集中支援

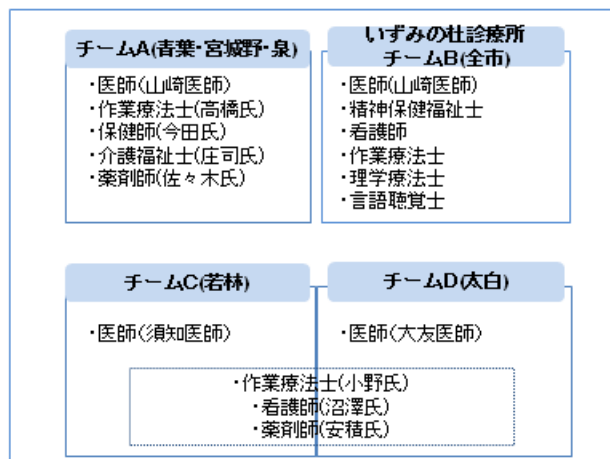
①実施エリア

平成 27 年度は青葉区・宮城野区・泉区の 3 区 32 か所の地域包括支援センターエリアで 2 チーム体制であったが、平成 28 年度は仙台市全域において 4 チーム体制で実施する。

②初期対応サポートチームの構成

青葉区・宮城野区・泉区の事例に対応するチーム A、仙台市全域の事例に対応するチーム B、若林区の事例に対応するチーム C、太白区の事例に対応するチーム D の 4 チームで構成する。なお、チーム C とチーム D の医師以外の職種は兼務。

平成 28 年度 初期対応サポートチーム員の構成



③対象者

訪問支援対象者は、原則として、40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のア～ウのいずれかの基準に該当する者とする。また、本人、あるいは家族が当事業の実施について説明を受け、利用を希望し、利用者基本情報内容等と関係する者に提示することを同意した者とする。

ア 医療・介護サービスを受けていない者、または中断している者で以下のいずれかに該当する者

- a 認知症疾患の臨床診断を受けていない者
- b 継続的な医療サービスを受けていない者
- c 適切な介護サービスに結び付いていない者
- d 介護サービスが中断している者

イ 医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

ウ その他、認知症の人や家族の状況から介入が必要な者

※初期対応の「初期」とは、「①認知症の発症後のステージとしての初期病気の早期段階」と「②認知症の人への関わりの初期(ファーストタッチ)」の両方の意味を持つ。対象となる認知症の人は初期とは限らず、中期であっても医療や介護との接触がこれまでなかった人も含む。

④支援期間

概ね6ヵ月を目安に支援を実施する。

⑤初期対応サポートチームの役割

認知症専門医の指導の下、複数の専門職が認知症の相談を受けた初期の段階に、認知症が疑われる人や認知症の人、及びその家族を地域包括支援センター職員と共に訪問し、アセスメントの上、訪問支援対象者や家族などへの初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う。医師は、他のチーム員をバックアップし、認知症に関して専門的見識から指導・助言等を行う。また、必要に応じてチーム員とともに訪問する。

⑥初期対応サポートチーム相談対応の流れ

地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員等とチームが協働で個別支援にあたる。【図1参照】

(3) 検討会議の実施

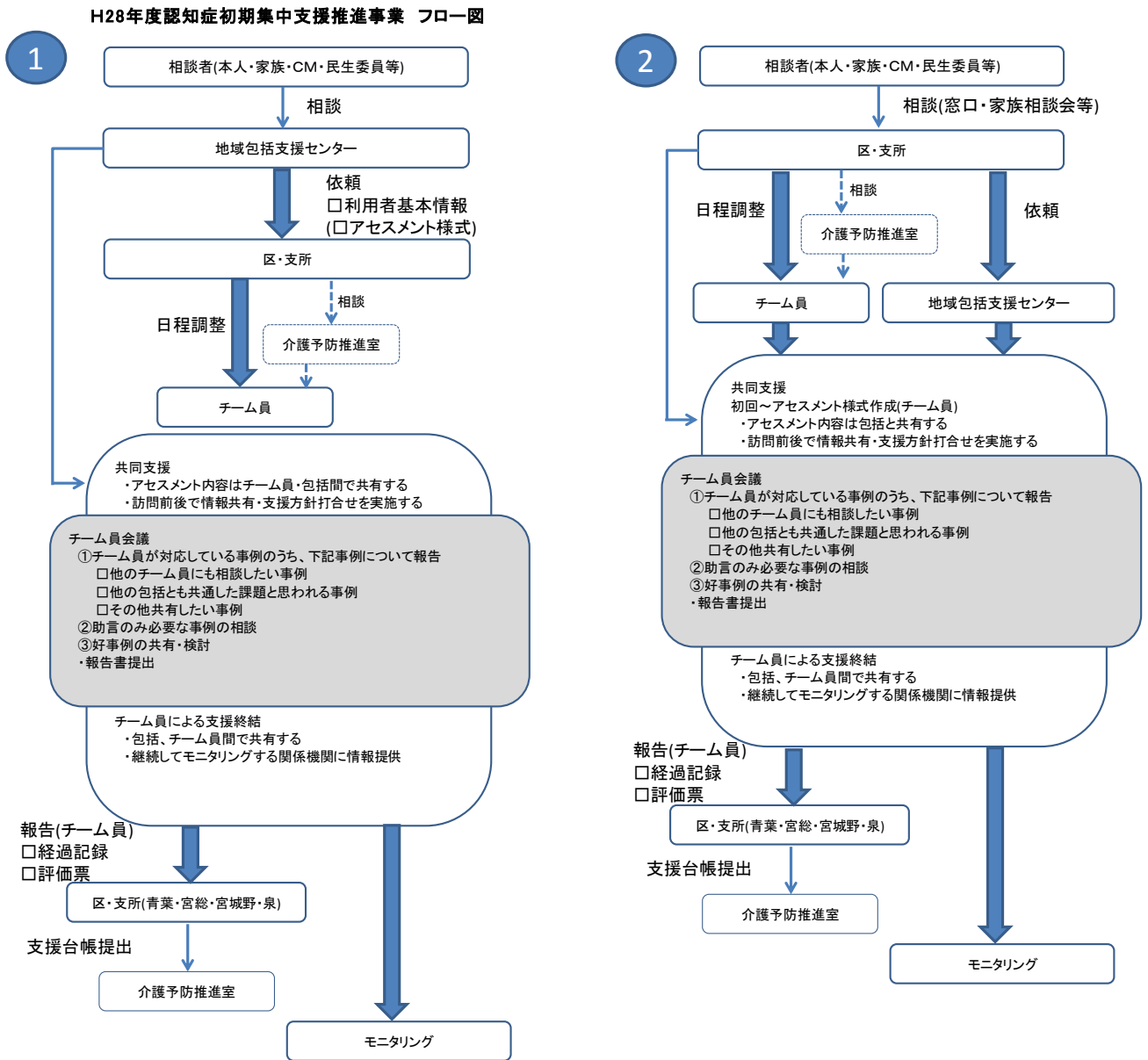
各チーム員会議や認知症対策推進会議において、認知症初期集中支援推進事業の評価を実施する。【表1、2参照】

(実施主体：介護予防推進室・区障害高齢課・チーム員・地域包括支援センター)

(4) 「認知症初期集中支援事業」についての検討会

平成29年2月7日(火)に、平成28年度から4チーム体制となつての課題抽出、次年度に向けての検討を行う予定。

【図 1】平成 28 年度認知症初期集中支援推進事業フロー図



4 課題

当事業は開始から 5 年が経過した。認知症ケアパスや認知症カフェ等他事業と連動し、認知症の早期段階での関わりの重要性や「介護サービスによらない生活支援(馴染の地域とのつながり支援や心理的サポート)」の必要性の理解は深まりつつある。今後は、支援策の充実が課題である。初期対応サポートチームには「診断へのアクセス」としての機能も求められており、チームの活用促進のための仕組み作りは引き続き課題となっている。

【表 1】平成 28 年度 チーム員会議日程(青葉区・宮城野区・泉区)

実施日	内容	会場
4/19(火)	キックオフ会議	青葉区役所
5/24(火)	チーム員会議	上杉分庁舎
7/26(火)	〃	上杉分庁舎
9/9(金)	チーム員会議	上杉分庁舎
10/4(火)	〃	青葉区役所
11/1(火)	〃	青葉区役所
12/9(金)	〃	上杉分庁舎
1/10(火)	〃	青葉区役所
2/7(火)	〃	青葉区役所
3/7(火)	まとめ会議	青葉区役所

※時間はいずれも 15:00～17:00

【表 2】平成 28 年度 チーム員会議日程(若林区・太白区)

実施日	担当区	内容	会場
4/28(木)	2区合同	キックオフ会議	若林区文化センター
5/26(木)	太白区	チーム員会議	太白区役所 2階第1会議室
6/30(木)	若林区	〃	若林区文化センター2階第1会議室
7/28(木)	太白区	〃	太白区役所 2階第1会議室
9/29(木)	若林区	〃	若林区役所 4階第1会議室
10/13(木)	太白区	〃	太白区役所
10/27(木)	若林区	〃	若林区役所 4階第1会議室
11/24(木)	太白区	〃	太白区役所
12/22(木)	若林区	〃	若林区役所 4階第1会議室
1/26(木)	太白区	〃	太白区役所
2/23(木)	若林区	〃	遠見塚コミュニティーセンター
3/23(木)	2区合同	まとめ会議	太白区役所

※時間はいずれも 15:00～17:00

(3) 本人・家族支援の取組み

①認知症地域支援推進員の配置

認知症の容態の変化に応じた適切なサービスが提供されるよう、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う。

【新オレンジプラン目標】認知症地域支援推進員数 平成30年度以降すべての市町村に配置

<本市の取組み状況>

平成28年7月4日(月)、平成29年2月2日(木)の2日間において、認知症地域支援推進員研修を認知症介護研究・研修センターの協力のもと開催。(48名受講)

平成28年度までに、市内全50か所の地域包括支援センター、本庁及び各区障害高齢課に配置。

認知症地域支援推進員が中心に実施する認知症ケアパスの作成、認知症カフェ等の設置について、研修等の開催によりスキルアップにつながる支援を行っている。

②認知症カフェ等の設置推進

認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進している。

【新オレンジプラン目標】認知症カフェ等の設置 平成30年度以降、認知症地域支援推進員等の企画により地域の実情に応じ実施

<本市の取組み状況>

平成27年度に認知症カフェ等を開催する団体と情報交換会を3回実施した。この中で本市における認知症カフェのあり方を検討し、分類を整理した上で開催情報を一覧にまとめ、市ホームページ上で公開している。平成28年6月時点で、市内に46か所の認知症カフェ等が設置されている。

平成28年度には、認知症カフェに関する基礎的研修、情報交換会を開催している。(認知症介護研究・研修仙台センターへ業務委託)

ア) 認知症カフェ開催基礎研修

【日時】平成28年5月17日(火)13時30分～16時30分

【会場】仙台市役所8階ホール

【受講者】認知症カフェを開催しようとする方・関心のある方 109名

イ) 認知症カフェ企画運営者の情報交換会・交流会

【日時】平成28年10月18日(火)13時30分～16時30分

【会場】太白区中央市民センター

【受講者】仙台市内で認知症カフェの企画・運営に携わる方 57名

ウ) 認知症カフェセミナー

【日時】平成 29 年 1 月 21 日（土）13 時 00 分～16 時 10 分

【会場】ハーネル仙台

【受講者】認知症カフェの企画・運営等に携わる方、関心のある方 約 200 名

③介護家族への支援

認知症の人の介護者への支援を行うことが認知症の人の生活の質の改善にもつながることから、介護者の精神的身体的負担を軽減するための支援を行う。

【表 6】<本市の取組み状況>

		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
もの忘れ電話相談	相談件数	229 件	273 件	199 件	9 月末時点 119 件
介護講座	参加者数 (回数)	110 名 (10 回)	108 名 (10 回)	99 名 (10 回)	10 回予定
家族懇談会	参加者数 (回数)	334 名 (39 回)	345 名 (40 回)	296 名 (37 回)	38 回予定

全市的な認知症高齢者の見守り活動を検討するにあたり、各地域包括支援センターにおける活動状況等の調査を実施した。見守り活動につなげていくためには地域住民等の意識の向上を図っていく必要があり、普及啓発活動を同時に推進する必要があるとの意見が多く挙がった。また、認知症行方不明者早期発見のための情報伝達システム構築について検討を行っている。

④認知症ケアパスの作成・普及

認知症の人やその家族、地域住民に対して、認知症の人の生活機能障害に応じた本市の取組みを体系的に分かりやすく示した「認知症ケアパス」を作成・普及している。

<本市の取組み状況>

平成 27 年度に仙台市版認知症ケアパス作成ワーキンググループを立ち上げた。メンバーには、認知症疾患医療センター、認知症の人と家族の会、東北福祉大学、地域包括支援センター、区役所のほか、認知症当事者にも参加いただき、2,000 部のケアパスを作成し、関係機関へ配布した。平成 28 年度には 8,500 部を増刷し、さらに内容改良に向けワーキンググループにて検討中である。また、各地域包括支援センターにおいて、地域版認知症ケアパスを作成中である。

【詳細は P13～14 参照】

平成 28 年度の取組み状況「認知症ケアパスの作成・普及」

1 印刷・配布について

(1) 印刷数

認知症ケアパス作成ワーキングにより、平成 27 年度 2,000 部印刷（平成 28 年 3 月初版）。平成 28 年 6 月に 10,500 部増刷し、市内各所に配布。

(2) 主な配布先

区役所・総合支所担当課窓口、地域包括支援センター、認知症の人と家族の会宮城県支部、認知症疾患医療センター、認知症サポート医、認知症外来のある医療機関、認知症対応薬局、その他市民向けイベントや認知症講座で配布

(3) 周知・広報

市政だより（H28 年 10 月号巻頭特集「認知症を正しく理解し地域で支え合おう」、H28 年 11 月号市長コラム「認知症を怖がらないで」）、仙台市医師会会報「てとてとて」（H28 年 12 月号認知症特集）、月刊介護保険（H28 年 7 月号自治体はいま「認知症当事者の声を積極的に施策に反映」）、河北新報（H28 年 8 月 3 日朝刊「市の施策に「声」生かす」）、日本経済新聞（H28.8.18 朝刊「認知症ガイド本作成」）、その他複数の自治体等から反響あり（東京都八王子市、岡山県、久慈市ほか）



市政だより平成 28 年 10 月号巻頭特集

認知症を正しく理解し、地域で支え合おう

自分らしく生活するために、さまざまな支援があります
本人や介護家族同士の交流の場・相談窓口等

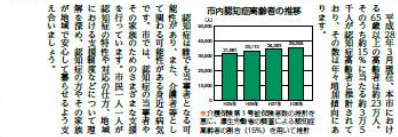
おれんじドア
平成 27 年 5 月に開設された「おれんじドア」は、認知症の当事者が代表を務め、医療・福祉関係者が協力して運営している相談会。当事者が相談相談にあじはるほか、当事者と家族が関心のグループに分かれて、趣味や生活で困っていることなどを自由に語り合っています。
運営する実行委員会の代表者「自分30年代で若年認知症と診断され、人生が変わったように感じました。でも、笑顔で前向きに認知症の方に出会ったことで、「自分もこんな風になりたい」と思い、当事者が関心の相談会を、発案しなれるまでとして、

認知症カフェ
「認知症カフェ」は、認知症の当事者や家族、地域の方が集まる場で、話し、市外の方で運営されています。各カフェでは月 1 回程度、お茶や音楽、スポーツなどを楽しみながら交流しています。認知症の専門家も参加しているため、物忘れや認知症について気軽に相談することもできます。
各カフェの開催日時や会場などは、市ホームページをご覧ください。お問い合わせください
詳しくは 100円～300円の参加料がかかります
詳しくは 100円～300円の参加料がかかります
詳しくは 100円～300円の参加料がかかります
詳しくは 100円～300円の参加料がかかります

「認知症ケアパス」配布中
認知症に関する相談窓口や窓口の場、様々なサービス、利用できる制度などの情報を、認知症の当事者の介護家族の皆さんへ紹介しています。「認知症ケアパス」を、お持ちください。お持ちください。お持ちください。お持ちください。

身近な総合相談窓口・地域包括支援センター
市内に50の地域包括支援センターは、高齢者の介護・福祉・健康・医療などさまざまな分野から支援を行う、地域の暮らしを支える場です。認知症に関することや介護費づくりなども、お気軽にご相談ください。
お住まいの地域を担当するセンターなど詳しくは市ホームページをご覧ください。お問い合わせください。お問い合わせください。お問い合わせください。お問い合わせください。

認知症ケアパス
認知症ケアパスとは、認知症の当事者や家族、地域の方が集まる場で、話し、市外の方で運営されています。各カフェでは月 1 回程度、お茶や音楽、スポーツなどを楽しみながら交流しています。認知症の専門家も参加しているため、物忘れや認知症について気軽に相談することもできます。各カフェの開催日時や会場などは、市ホームページをご覧ください。お問い合わせください。詳しくは 100円～300円の参加料がかかります。詳しくは 100円～300円の参加料がかかります。詳しくは 100円～300円の参加料がかかります。詳しくは 100円～300円の参加料がかかります。



認知症を正しく理解し、地域で支え合おう

認知症は高齢者の約 10% が罹患する病気です。その数は年々増加傾向にあり、今後も増加を続けることが予想されています。認知症は、脳の機能が低下し、日常生活に支障をきたす状態のことです。新しいことが覚えられない、段取りがうまく立てられない、言葉がうまく使えないなど、人によってさまざまな症状が現れます。

チェックしておきましょう 軽度認知障害 (MCI)
軽度認知障害 (MCI) とは、健忘と認知症の前段階です。日常生活に支障はありませんが、そのまま放置すると 5 年後、約半数の方が認知症に進行するといわれています。適切な予防・治療を行えば、発症を遅らせることが可能な場合があります。思い当たることがあれば、かかりつけ医等に早めに相談ください。

早期診断・早期対応が大切です
市内で 4 ヶ所所定されている「認知症疾患医療センター」の一つ、仙台西多賀病院の医師と相談をお願いします。
本病では、かかりつけ医と連携して、認知症を早期から診断し、相談員が各種支援機能を提供しています。認知症は「脳の機能が低下し、日常生活に支障をきたす状態」のこと。新しいことが覚えられない、段取りがうまく立てられない、言葉がうまく使えないなど、人によってさまざまな症状が現れます。そして何より、今後の生活について自分の意思を反映させることができます。そのために、早期に診断・治療を受けることが大切です。思い当たることがあれば、かかりつけ医等に早めに相談ください。思い当たることがあれば、かかりつけ医等に早めに相談ください。

チェックしておきましょう

- 今病をしようとしていかに簡単に思い出せない
- 誰かを何度も言ったり尋ねたりする
- 人と会う約束を忘れることがある
- 新しい物が増えている
- 何かをしようとしても「まあいいか」と思ってしまう
- 興味の喪失を繰り返して来た
- 記憶力が下手になった
- 買い物で必ずしも金額が覚えられない
- 今日の日付が思い出せない
- 外出することが減った

2 平成 28 年度認知症ケアパスワーキング

昨年度のワーキングメンバー13名をもとに、新たに指定した認知症疾患医療センター職員等を追加して、平成28年度はメンバー18名でワーキングを3回開催予定。

(メンバー：認知症疾患医療センター職員、認知症サポート医、認知症介護研究・研修仙台センター、各区役所職員、地域包括支援センター(各区から1センター)、当事者、介護家族)

(1) 第1回ケアパスワーキング

【日時】平成28年11月15日(火)17時30分～19時

【会場】市役所本庁舎5階会議室第2会議室

【内容】認知症ケアパスの周知・配布状況

内容の見直し(修正・追加事項)の検討

【概要】

相談窓口来訪時や、家族交流会や認知症カフェ開催時に配布し、「仙台市の取り組みがよく分かった」「相談先がたくさんあることを知ってほっとした」等の反応を確認できた。また、当事者の中には窓口で病歴等を問われることを好まない方もいるので、気軽に手に取れる環境に設置されればよい。ケアパスの冊子は紙質が良すぎるのではないか、文字・情報が多くて読みにくい部分があるなどの意見により、レイアウト、デザインについて若干の修正を検討する。

(2) 第2回ケアパスワーキング

【日時】平成28年12月26日(月)17時30分～19時15分

【会場】市役所本庁舎2階第2委員会室

【内容】「普及啓発」と「個別支援」の観点でグループワーク

地域版ケアパスの紹介と情報交換

内容の見直しについて

【概要】

今後はさらに幅広い年齢層の方に認知症の普及啓発、ケアパスの周知が必要。ケアパスは、仲間と出会い、つながるためのもので、元気な仲間がたくさんいるという前向きなメッセージを伝えられる、このことを大事にする。次年度に向けて、若干の修正を加えるとともに紙質を落として単価を下げて印刷部数を増やす方向で進める。

※第3回ケアパスワーキングは3月開催予定。



3 地域版ケアパス情報交換会の開催

各地域包括支援センターで作成検討中の地域版ケアパスについて、作成プロセスを再確認し、今後の活動の気づきを得ることを目的に情報交換会を開催。地域包括支援センター職員43名、各区役所・総合支所職員7名が参加。

【日時】平成29年1月16日(月)14時30分～17時

【会場】市役所本庁舎8階ホール

【内容】事例報告、情報交換、グループワーク等

(4) 良質な介護の提供

①認知症介護実践研修等

認知症介護実践者研修・実践リーダー研修の新カリキュラム移行について、認知症介護指導者 8 名、健康福祉事業団介護研修室担当者とともにワーキングにて検討。平成 28 年度はこれまでにワーキングを 7 回実施し、円滑な移行に向けて検討を進めている。

②介護サービス基盤の整備

認知症の人が、小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの訪問・通所系サービス、認知症対応型共同生活介護や特定施設入居者生活介護などの居宅サービス等を利用し、様々な形で介護サービスと関わりながら生活していくに当たって、多様な介護サービス基盤の整備を進めていく。

<本市の取組み状況>

仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成 27 年度～平成 29 年度）に基づき、介護サービス基盤の整備を推進。

【表 7】

	H27～29 年度 整備目標数	H27 年度 選定数	H28 年度選定数 (H28.12 末現在)	総定員数 (H28.12 末現在)
特別養護老人ホーム	700 人分	479 人分	179 人分に加え 現在公募中 (※)	4,428 人分
介護老人保健施設	360 人分	300 人分	現在公募中 (※)	3,380 人分
認知症対応型共同生活介護	360 人分	166 人分	216 人分	1,997 人分
小規模多機能型居宅介護	12 事業所	4 事業所	2 事業所	40 事業所
特定施設入居者生活介護	360 人分	222 人分	現在公募中 (※)	2,351 人分

(※) 特別養護老人ホーム 80～100 人分程度、介護老人保健施設 100 人分程度、
特定施設入居者生活介護 150 人分程度公募中